

東京都の処分場の寿命はどのくらい伸びた？

東京の中央防波堤外側（ちゅうおうぼうはていそとがわ）の寿命（じゅみょう）は、リサイクル技術（ぎじゅつ）の向上（こうじょう）などにより当初の約30年からおよそ50年以上へと約20年伸びました。

埋め立ては1977年から始まり新海面処分場（しんかいめんしょぶんじょう）は最後の埋立処分場（うめたてしょぶんじょう）です。処分場がなくなるとゴミが街中（まちじゅう）にあふれる可能性（かのうせい）があります。

最終処分場の残余年数と容量

